

一般演題（口述）

一般演題（口述）

認知症1

● 2018-10-03 14:00 - 15:00 ♣ 第7会場 | 米子コンベンションセンター 1F 情報プラザ

O30-3 ♣ 地域リハ／認知症

訪問リハビリテーションにおける認知症高齢者の生活環境に合わせた関わり

[理学療法士] 野元 剛:1

1:株式会社アール・ケア

【はじめに】2025年には認知症高齢者が700万人になると言われている。今回3人の認知症高齢者の生活環境に合わせたアプローチによって意欲の向上や活動量の増加に繋げる事ができたため報告する。【症例紹介と経過】90歳代女性。3階戸建てに長女家族と暮らす。認知症に加え前頭葉脳出血を合併。入院中著しい意欲の低下があったが介入後、以前生活されていた2階リビングへの移動練習を行い、2階リビングで家族と過ごす事が出来るようになり意欲の向上に繋がった。80歳女性、右片麻痺と認知症を合併。同居の次男が他界しサ高住に転居。息子の死と環境の変化から意欲と認知機能が低下。これまで行っていたADLも困難な状況となり、ヘルパーや施設スタッフの介助が必要となる。まず衣類を畳む練習を実施し、煩雑になっていたベッドに籠を設置したことで衣類を整理されるようになった。80歳代女性。独居、認知症によるうつ症状と意欲低下で閉じこもりとなった。介入当初は拒否があったが、信頼関係を作る事から始め、提案した自主練習を行なわれるようになり、散歩やコンビニまで買い物に行けるようになった。【まとめ】様々な環境で在宅生活を営んでいる認知症高齢者に対し、「その環境で何が出来るか」を考え、本人や家族、他職種と協力しながらアプローチし、在宅生活の限界点を上げていく事が我々リハ職の大きな役割と考える。